



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：東部州の治安情勢が不安定化

9月29日深夜、サウジアラビア東部州カティーフ市アワーミヤ地区において、同地区の入り口において歩哨をしていた警察官が何者かに銃撃され、負傷した。これに先立ち、27日には同地区においてテロ関連の容疑で指名手配されていたバーシム・アリー・クダイヒーを拘束しようとした警察と同人との間で銃撃戦が発生し、クダイヒーが死亡するという事件が発生していた。

30日夜、クダイヒーの出身地であるタルート市（カティーフ市の隣町）において、クダイヒーの葬儀がとりおこなわれた。葬儀では、サウード王家を非難するプラカードが掲げた参列者が通りに集結した。

評価

サウジ国内においてシーア派人口の多い東部州では、これまでも治安情勢が不安定化することが何度かあった。特にカティーフはその中心地であり、古くは1979年のイラン革命直後、最近では2011年の「アラブの春」の際に、抗議運動が勃発した。今年に入ってから、2月に2件の銃撃戦がアワーミヤ地区において発生したほか、9月2日にも同地区で銃撃戦が発生し、流れ弾により石油パイプラインが損傷して火災となった。

東部州はサウジアラビアの石油産業の中心であるダンマームとザフラーン（ダーラン）を擁しているが、現地住民からはその恩恵を十分に受けていないとの不満が度々表明されてきた。また、シーア派に対する差別があることも不満を増幅させる一因となっていると言われている。現地住民による抗議運動や暴動について、サウジアラビア政府は、イランの介入を批判するという対応をとってきており、今回のクダイヒーの事案についても同様の見解を示している。現在のところ、現地において大規模な抗議運動が発生する兆候は確認できないが、今後の情勢次第では、2011年のときと同様の事態に至る可能性もある。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799